

平成22年度 学校自己評価システムシート (県立久喜工業高等学校)

目指す学校像	自分創りを目指し、望む進路実現を図り、真の感動を味わえる”ころ・技・からだ”が育つ学校 -①もの創りの”ころ”と”技”を身につけた人づくりを目指す。 ②知・徳・体のバランスのとれた人づくりを目指す。-
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 個に応じた学力と技術力の向上を推進する。授業態度の確立を図る。授業内容の充実を図る。資格取得等を奨励する。 基本的な生活習慣の確立と向上を推進する。欠席、遅刻、早退の減少を図る。服装、頭髪指導の徹底を図る。挨拶と正しい言葉遣いの励行を図る。 人権尊重の教育を推進する。人権を尊重する生活態度の育成を図ると共に、人権教育の充実を図る。 地域の信頼と期待に応える開かれた学校づくりを推進する。中学生やその保護者に積極的な情報提供を行う。地域の行事等への参加。
------	--

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	9名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)					
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○明確な目的意識をもつ生徒がいる一方、学習意欲に欠ける生徒も見受けられる。 ○基礎的な知識や能力に欠ける生徒が見受けられる。 ○こつこつと努力している生徒がいる一方、学習習慣を身につけていない生徒も見受けられる。	個に応じた学力と技術力の向上を推進する。	○「人の話を聞く姿勢」や「学ぶことの大切さ」を折に触れて話して聞かせる。 ○これまでに以上に、自己実現を目指す進路指導の充実を図る。 ○生徒の興味関心をひく授業展開や教材の選択を工夫する。 ○資格取得指導を引き続き推進するとともに、従来のもの以外にも取り組める資格があるか検討する。 ○普通科と工業科でより一層協働し授業計画を見直すために研修会を企画する。 ○習熟度別学習などの工夫や補習等の補助学習の実施・充実を図る。	○成績不振者数 ・欠点者数及び欠点解消率 ・提出物の提出状況 ○希望する進路(就職・進学)の実現状況 ○資格取得状況 ・受験者数及び合格率 ○普通科・工業科合同研修会の回数	○欠点者数は年を追って微減(差分6人)してきたが今年度は約3×2(22人)減少した。 ○欠点解消率は年を追って下がっていたが(差分1~2%)、今年度は差分6%上昇した。 欠点者数 206人(昨年228、一昨年234、3年前240) 欠点解消率 39%(昨年33%、一昨年35%、3年前36%) ○就職率は98%進学率は100%である。 ○工業5科全体で見た場合、合格率は下がった。 受験者数は昨年より微増した。 ○全国工業高等学校長協会ジュニアマイスター顕彰にて、ゴールド1名、シルバー1名の受賞者があった。 ○埼玉県表彰制度においては、26名の生徒表彰手紙を行った。	A	○昨年度より始めた管理職・教務部による、欠点者を集めた再考査受験への心構え講話指導が功を奏してきた。この指導は当分続ける必要がある。 ○欠点者の大幅減少を目指したいが、学校を挙げた学力向上の取組み(学校設定教科目を取り入れた教育課程の編成など)を待たなくてはならないだろう。 ○新たな企業開拓と掘り起こし対策が必要である。2年生からの進路対策の強化も必要である。 ○学力低下に伴う補習授業の増加や資格に伴う啓蒙活動の強化が必要である。
2	○一部の生徒に欠席、遅刻、早退がみられる。 ○一部の生徒は、頭髪・服装指導で指導されている。 ○一部の生徒に、あいさつができない者が見受けられる。	欠席・遅刻・早退の減少、服装・頭髪指導の徹底、挨拶と正しい言葉遣いの励行を図る。	○生徒指導部、各学年を中心に、学校全体として組織的な遅刻指導を工夫する。 ○校門指導や通学路指導を継続的に行う。 ○頭髪・服装検査の事後指導を徹底して行う。 ○スクールサポーターとの連携を工夫する。 ○教員から生徒へ、積極的にあいさつを行う。	○欠席・遅刻・早退の数 ○頭髪・服装指導を受けた数 ○校門指導・通学路指導の回数 ○頭髪・服装検査の事後指導の回数 ○挨拶のできる生徒の割合・状況	○校門指導等により調査したデータを活用して、生徒指導部と学年が連携を図り継続的に取り組んだ。また、PTAの協力により月初めに校門指導(挨拶運動)を年間を通して行った。 ○挨拶指導は廊下などで全職員が取り組み、昨年より挨拶のできる生徒の割合が増加した。	B	○学期の終了時に遅刻、欠席の著しい生徒は、生徒指導部と管理職により指導する。その際、保護者の協力を得るため保護者にも立ち会って指導するように、行事計画の盛り込む。 ○遅刻指導の充実を図る。
3	○人権問題について学習し、人権を尊重する態度をさらに育成する必要がある。 ○生徒会活動をはじめ、生徒の自主的な活動を通して「ころ」の教育を充実させる必要がある。 ○生徒会活動において、生徒会執行部は熱心に活動しているが、生徒会全員を巻き込めていない状況もある。 ○生徒会新聞の発行も順調だが、さらに内容に厚みを持たせたい。 ○部活動をさらに活発にする必要がある。	人権を尊重する生活態度の育成を図ると共に、人権教育の充実を図る。	○全校集会で人権問題に関する講演・ビデオ視聴やLHRでの指導などにより人権を尊重する態度を育成する。(人間としての在り方・生き方教育の円滑な実施) ○生徒会執行部と委員会で核となる組織づくり・計画・立案を行う。また、各行事においてより多くの生徒を巻き込むような組織づくりを行う。 ○生徒会新聞については、写真部と連携することで確実に取材する。編集委員の増員を図る。また、生徒の関心の高い話題を提供することで多くの生徒の協力と支持を得る。 ○部活動参加者を増やすため、部活動顧問委員会や生徒会と連携し、今以上にやっていたよかったと思う「見える部活動」を目指して、生徒会新聞やホームページの活用など広報活動に力を入れる。	○全校集会、LHRにおける人権教育の回数 ○各種委員会や部長会議の開催回数と出席率 ○生徒会新聞の発行回数 ○部活動への参加率	○例年同様に全校集会で人権に関する校長講話及びビデオ上映を2時間した。さらに今年度は、LHRを1時間使って「在り方生き方教育」の指導を行った。 ○部長会議等の出席率は、年間を通して約80%であった。 ○生徒会新聞は、号外も含めて8回(昨年度は8回)発行した。 ○部活動の加入率は100%であるが、実際に活動している人数の実態把握はできていないのが現状である。しかし放課後や休業日の様子から、約半分程度の生徒が活動していること認識できる。	B	○計画を早め(1ヶ月前など)に立て、予告も行えば、出席率の向上は見込めるであろう。 ○部活動の活性化は、学校全体の職員・生徒の意識向上が必要である。 ○「在り方生き方教育」のさらなる充実を図る。
4	○久喜工高の情報が中学生やその保護者、地域の方々、本校生徒の保護者などに十分に伝わっていない点がある。 ○スクールサポーターとの連携をさらに工夫し、幅広く参加してもらうようにしていく必要がある。	中学生やその保護者に積極的な情報提供を図るとともに、地域の行事等へ参加し広報に努める。	○積極的にホームページを活用し、情報発信を行う。 ○PTAとの連携を深めるとともに、地域の行事等に参加するなど、地域との連携を深める。 ○学校案内等の内容を、親しみやすく印象深い物にすると共に、中学校訪問などを通してPRに努める。 ○各分掌等と相談しながらスクールサポーター活動のさらなる充実を図る。また、PTA・後援会の会合等でスクールサポーター登録の呼びかけを行う。 ○出前授業など、小・中学校との連携を深める。	○ホームページのアクセス数 ○地域の行事への参加状況 ○学校公開の参加者数 ・文化祭 ・公開授業 ・体験入学 ・学校説明会など ○スクールサポーターの参加者数 ○中学校からの本校視察の受け入れ数 ○中学校からの本校視察の受け入れ数 ○中学校からの本校視察の受け入れ数	○ホームページの更新を34回実施 アクセス数(1月末現在)18499(昨年同期17972) ○久喜市民まつり、久喜総合文化会館フレンドシップ等、地域の行事へ参加し、好評を得た。 ○文化祭の参加者 公開日が雨天にもかかわらず、来校者420名(昨年度は新型インフルエンザのため一般公開はなし) 公開授業の参加者 前年並み 体験入学、学校説明会の参加者 前年比5%増 ○スクールサポーターの参加者数 前年並み ○中学校からの本校視察の受け入れ数 昨年度17件 → 今年度22件 中学校への出前授業(1校)、2年生の体験入学(1校)を初めて実施	A	○生徒、保護者の声や、学校運営にいかすため、生徒及び保護者アンケートを実施する。 ○これまで広報活動に努めてきたが、工業高校のよさがまだまだ理解されていない、生徒募集に向けて、中学生とその保護者、中学校教員への効果的な広報活動をさらに進める必要がある。次年度は現在実施している体験入学を拡充し、市内中学校の2年生を対象の体験入学の実施を検討したい。 ○文化祭のときに、中学校教員向けの開校講座を検討したい。 ○中学校教員向けアンケートの実施

学校関係者評価	実施日 平成23年2月25日
学校関係者からの意見・要望・評価等	よく努力している。特に、就職・進学の中で成果が出ている。 個に応じた学力向上の面では、見えないところがあり、興味関心を高める努力が必要である。 久喜市の支援制度などの活用も検討してはどうか。 イェアソンをしながらだと、道であつてもあいさつができないのではないかと驚いている。具体的な記述があり、改善されているように思われる。 先日、プロジェクトXのビデオをみて、ものづくりの姿勢が変わった。インターンシップでは、働いている人と話ができるともよかった。
個別指導が重要ではないか。	挨拶ができない生徒もいる。地域の人に助けてもらうことも必要ではないか。どこに基準をおくかにもよる。会費ができることでもよいのではないかと。教員が朝立って指導することも検討。クラスでは、遅刻者が多い。
社会の人とつきあう部分を多くしてはどうか。	新聞委員はよく頑張っていると思う。学校全員に広がりを持たせる工夫に期待したい。 部活動の実質的な参加者の増加を目指して、興味を持たせるようなクラブなどできないだろうか。また、強制加入をすることでかどろか検討が必要ではないか。中学校では強制加入をしていない。 掃除が行き届いているが、生徒のコミュニケーション能力の不足を感じる。 親も、子どもの顔を見て話をすることが大切だと思う。 生徒会でも、周辺のゴミ拾いを始めた。
よく努力している。	実績と満足度を区別する必要があると思う。情意面をどう評価するか。子どもたちが満足してやっていることが評価につながるだろう。 基準が明確でないアンケートもある。何を基準とするかの検討してはどうか。 市民まつりへの参加は、よいPRとなっているが、生徒の参加がもっと増えるように思う。 生徒から、学校の手紙が届かないことが多いので、メール配信なども検討してはどうか。